

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

令和3年2月3日公表

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導練習室等スペースとの関係で適切である	<input type="radio"/>		活動スペースと学習スペースを分け、利用人数や年齢によってレイアウトを変更しております。	今後も同様に適切なスペースの確保と環境整備に努め、言語療育に集中しやすい環境づくりに配慮して参ります。
	2 職員の配置数は適切である	<input type="radio"/>		複数の職員が送迎に出る場合には、可能な限り配置人数を増やすなど、適切な療育環境になるよう配慮しております。	職員の配置数は今後の検討課題とし、より良い療育環境のために、ゆとりある人員配置で対応し、児童や保護者様が安心して利用して頂ける環境づくりを目指して参ります。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	<input type="radio"/>		玄関を入れると、すぐに下駄箱を設置しており、荷物置き場、手洗い場、換気するスペースなど、スマートに動けるよう視覚的にわかりやすく配置しております。	今後も利用児童の成長や個々の特性に応じた最善の環境作りを目指して参ります。 現時点では車椅子を利用する児童の受け入れはありませんが、今後必要に応じてバリアフリー化を検討して参ります。
業務改善	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	<input type="radio"/>		衛生環境には十分に配慮し、定期的に室内の消毒殺菌を行い、換気を行うなど常に清潔な空間を保つ事を心掛けています。 また利用児童が心地よく過ごせて、活動しやすいようレイアウトを工夫しております。	今後も同様に心地よさと清潔な空間の維持に努めて参ります。
	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	<input type="radio"/>		全職員参加で意見を出し合う機会を確保し、現状の把握と、目標設定や業務改善を設定しております。	今後も全職員の認識一致を図るため、療育内容の確認や、情報共有と意見交換を行って参ります。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	<input type="radio"/>		定期的に保護者様にはアンケートの協力をお願いし、ご意向を把握することで改善に繋げております。	今度も保護者様から頂いたアンケートをもとに全職員でご意見を真摯に受け止め、業務改善に努めて参ります。
適切な支援の提供	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	<input type="radio"/>		保護者様からの評価並びに事業所の自己評価の結果は、COMPASS公式Webサイトで公開しております。	今後も毎年ウェブ上で自己評価の公開を行って参ります。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	<input type="radio"/>		現時点では第三者評価は実施できておりません。	第三者による外部評価については今後課題として検討して参ります。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している			コロナ禍のため今年度の参加機会は減っておりますが、従来は積極的に参加し、参加した職員が事業所内にて周知するように努めています。 今年度は本社で企画制作された研修動画を各職員で視聴することで資質の向上に努めています。	今後も積極的に研修会に参加し、視聴するなど、常に全職員の資質の向上を図って参ります。
関係機関や保護者との連携	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	<input type="radio"/>		利用開始前や定期的に保護者様に説明と確認を行っており、課題を把握した上で児童の状況や保護者様のニーズ等を掌握した情報を支援計画に反映させるように努めています。	今後も継続して、児童や保護者様のご意向や、児童の課題を適切に反映させた支援計画を作成して参ります。
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	<input type="radio"/>		標準化されたアセスメントシートを使用し、その内容をもとに支援計画の作成へと繋げております。	今度も継続して適切に行って参ります。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	<input type="radio"/>		ガイドラインの支援内容の項目から保護者様とのやり取りを通して得た現在の課題の整理や、新たな課題に向けて具体的な支援計画を作成しております。	今後も継続して、項目の選択や支援内容が適切なものになるよう努めて参ります。
保護者への説明責任等	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	<input type="radio"/>		児童発達支援計画をもとに、各児童の療育プログラムを作成しており、職員間で共通理解を図りながら取り組んでおります。	今後も継続して、支援計画に沿った支援をして行って参ります。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	<input type="radio"/>		活動内容については支援計画をもとに職員間で話し合い意見を出し合いながらチームで立案しています。	今後も支援計画に沿った支援が行われるようチームで立案を行って参ります。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	<input type="radio"/>		基本的に職員間で連携を取りながら活動しておりますが、対応する担当職員が工夫や関わり方で変化を持たせることで、固定化しない活動内容を工夫しております。	今後も平日の活動と長期休みの活動、季節ごとの行事や制作も取り入れて固定化しないよう工夫して参ります。
非常時等の対応	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	<input type="radio"/>		個別活動と集団活動の両方を特性、発達段階、年齢、保護者様のニーズに応じて、計画的に組み込んでおります。	今後も継続して、それぞれの活動を組合せた支援計画を作成して参ります。
	17 支援開始前に職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	<input type="radio"/>		毎朝職員間でミーティングを行い、支援内容の打ち合わせと目的や注意事項を話し合って確認をしています。	今後もミーティングを継続し、情報共有に努めて参ります。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	<input type="radio"/>		勤務がシフト制の為、支援終了後の全職員での打ち合わせが難しい場合には、次の日の支援前までには必ず打ち合わせを行い共通理解を図っております。	今後も打ち合わせを行い、共通理解を図って参ります。
○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている			日々の療育内容や児童の様子は必ず記録しております。 記録をもとに支援の改善を図ったり、職員間で情報交換を行っております。	今後も同様に日々の記録を記入し、支援の検証・改善を行って参ります。
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	<input type="radio"/>		定期的（6ヶ月以内）に必ずモニタリングを実施し、現状の把握を行い支援計画を見直しております。	今後も同様に、モニタリングと支援計画の見直しを行って参ります。
	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議に子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	<input type="radio"/>		担当者会議には、児童の状況を一番把握している児発管が参加しております。	現場の意見も十分に児発管が把握して、より質の高今後も同様に児発管が参加致します。
○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	<input type="radio"/>		関係機関と積極的に情報共有・相談を行い、連携した支援ができるよう努めています。	今後も更に地域との繋がりを大切にしながら連携出来るようにして参ります。
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	<input type="radio"/>		現在、特別な医療ケアが必要な児童は在籍していません。	事業所は重症心身障がい児以外の児童が対象となっていることもあります。今後受け入れ希望があった場合は、慎重に検討し受け入れ態勢、事業所のあり方について模索して参ります。
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医機関等と連絡体制を整えている	<input type="radio"/>		現在、特別な医療ケアが必要な児童は在籍していません。	事業所は重症心身障がい児以外の児童が対象となっていることもあります。今後受け入れ希望があった場合は、慎重に検討し受け入れ態勢、事業所のあり方について模索して参ります。
○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。	25 移行支援として、保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	<input type="radio"/>		必要に応じて電話連絡や訪問を行い、支援内容や活動内容などの情報共有を行い、相互理解を図っております。	今度も同様に、関係機関と連携して支援内容等の情報共有と相互理解を図って参ります。
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校（小学校部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	<input type="radio"/>		必要に応じて電話連絡や訪問を行い、支援内容や活動内容などの情報共有を行い、相互理解を図っております。	今度も同様に、関係機関と連携して支援内容等の情報共有と相互理解を図って参ります。
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	<input type="radio"/>		各専門機関と連携して情報交換を行っております。 また、他の事業所とも意見の交換ができるよう連携を図っております。	今後も関係機関とは積極的に連携を取り合い、研修や助言を受けるなど、事業所との繋がりを大切にして参ります。
○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。	28 保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	<input type="radio"/>		本年度は事業所発信の交流機会は持てませんでしたが、保育園や幼稚園に通っている児童は多く、個々で障がいのない子どもとの交流があると考えております。	現在コロナ過であり、交流会の開催は大変難しいため、保護者様のご意向を伺いながら、今後の検討課題と致します。
	29 (自立支援) 協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	<input type="radio"/>		今年度は、コロナ禍のため会議等への参加機会はありませんでした。	今後、協議会等への参加は検討課題とし、参加することで児童への支援に繋げていくよう努めて参ります。
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	<input type="radio"/>		児童の事業所での様子や療育内容は、日々の連絡帳に記載をしております。 また、送迎時にはできるだけその日の児童の様子をお伝えするよう心がけており、保護者様との共通理解に努めています。	今後は更に取り組んだ課題や達成したことなど、より丁寧な説明をして参ります。
○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。	31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対する家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	<input type="radio"/>		保護者様から子育てのお悩みや児童との関わり方についてご相談を受けた際には、丁寧に助言・アドバイス等を行っております。	今後も継続して保護者様のお悩みに寄り添う支援を行って参ります。
	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	<input type="radio"/>		契約時に説明を行い、内容の変更があった際にも、保護者様に安心して頂けるように、わかりやすい言葉を使い丁寧に説明をしております。	今後も保護者様に安心して利用を継続して頂けるように、丁寧な説明をして参ります。
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	<input type="radio"/>		ガイドラインから該当児童に必要な支援を選択し「児童発達支援計画」を作成しています。 契約の際には、管理者・児発管より詳しい説明を行い同意を頂いております。	今後も同様に、ご意向や児童の状況に応じた支援計画を作成し、丁寧な説明を行って参ります。
○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	<input type="radio"/>		連絡帳でのやり取りや送迎時の機会を通してお問い合わせが難しい場合には、次の日の支援前までは必ず打ち合わせを行い共通理解を図っております。	今後も継続して保護者様からご相談やお悩み等をお聞きし、安心してご利用して頂ける環境づくりに努めています。
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	<input type="radio"/>		コロナ感染症予防の観点から、今年度は父母の会の活動を支援したり、保護者会等の開催機会はありませんでした。	保護者会等の開催については、コロナ終息後に保護者様のご意向を伺いながら検討して参ります。
	36 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	<input type="radio"/>		保護者様から子育てのお悩みや児童との関わり方についてご相談を受けた際には、丁寧に助言・アドバイス等を行っております。	今後も児童や保護者様に安心して継続してご利用頂けるよう努めています。
○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	<input type="radio"/>		公式ウェブサイトにて。月1回程度、当事業所の様子をお伝えしています。 また年4回季刊誌を発行し、季刊誌では職員間で話し合い、事業所の情報ができるだけ詳しく紹介するように努めています。	今後も定期的な情報発信を行って参ります。 また、できるだけ見やすくなるよう検討して参ります。
	38 個人情報の取扱いに十分注意している	<input type="radio"/>		個人情報については鍵付きの書庫に保管して管理を行い、書類等を破棄する場合には、シュレッダーを使用する等、全職員が常に細心の注意を払っております。	今後も継続して個人情報の扱いには十分注意して参ります。
	39 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	<input type="radio"/>		常に意思疎通には配慮し、契約時や日々の児童の様子についてもできるだけわかりやすい言葉を使用するように心掛けております。 主に連絡のやり取りは連絡帳を使っておりますが、送迎時には直接保護者様とお話しのため、より詳しい内容をお伝えしております。	今度も継続して、児童や保護者との意思の疎通や情報の伝達に努めています。
○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	<input type="radio"/>		今年度は地域住民をご招待する等の企画運営の機会はありませんでした。	現在コロナの感染拡大防止の観点から行っておりません。 コロナ終息後に保護者様のご意向を伺いながら検討して参ります。
	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	<input type="radio"/>		緊急時の各種対応マニュアルについては、事業所入り口の壁面に設置しております。 いかなる状況でも対応できるようになんと訓練を立てて訓練を行っております。	今後も継続して訓練を行い、緊急時には、全職員が対応できるよう努めています。
	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	<input type="radio"/>		児童の安全を第一に考え、風水害、火災、地震、防犯対策等、全職員の共通理解のもと、定期的に訓練を行っております。	今後も継続して訓練を行い、緊急時には全職員が対応できるよう努めています。
○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	<input type="radio"/>		保護者様に十分に確認を行い、緊急時には全職員が適切に対応ができるよう共通理解を図っております。	初期アセスメントで必ず聞き取りを行うことの徹底に努めます。
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	<input type="radio"/>		アレルギーについては保護者様より面接時に詳しい情報を頂いています。 全職員で丈夫共有を行い、共通理解と共に、定期的に情報確認を行っております。	今後も継続して保護者様から情報を頂いて、全職員で共通理解を図って参ります。
	45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	<input type="radio"/>		ヒヤリハットはすぐに全職員で確認を行います。 その後記録して定期的に事例を振り返り、対応について話し合うことで再発防止に努めています。	今後も継続して、ヒヤリハット事例を作成し、共通理解に努めています。
○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。	46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	<input type="radio"/>		虐待防止のため、定期的に児童への対応については職員間で話し合いを行い、支援中にも声掛け合うことで全職員が周知徹底に努めています。	今後は社内・社外を問わず、研修会を開催できるような機会を検討して参ります。
	47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	<input type="radio"/>		利用契約書に身体拘束の禁止を記載しており、生命又は身体を保護するためにやむを得ず身体拘束を行う場合はあらかじめ文書により保護者様の同意を得ております。	今後も原則として身体拘束は行わない基本姿勢を守り、やむを得ず身体拘束を行なう場合は、あらかじめ文書により保護者からの同意を得て、個別支援計画に記載して参ります。